

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/08/18 ～2018/10/04)

1. 勉学の状況

9月4日から College for Creative Studies での授業が始まりました。College for Creative Studies はデトロイトにある美術大学で学部には12の学科、大学院には4つのコースがあります。わたしは大学院の Integrated Design Course に所属しています。授業は Graduate Design Studio、Contextual Design Research、Data Visualization、Professional Design Development を受講しています。4つの授業の中では Graduate Design Studio が一番メインとなる授業で、プロジェクト型の授業です。授業は自動車メーカーのフォードと共同で行い、デトロ



Graduate Design Studio で製作中のリサーチマッピングボード。等身大のデトロイトにマッピングしています。

イトにおける Mobility Service をデザインするというテーマでプロジェクトは進んでいます。Mobility Service がテーマで

すが公共交通機関や乗り物といった狭い意味での Mobility ではなく、Mobility を「日常生活における人々の移動」と定義し、デトロイトに住まう人々が何を目的にどのように移動し、そして何を必要としているのかということを考えながらデザインを考えています。またこのプロジェクトにおける重要な点は、デトロイトという地域の背景にあります。デトロイトは1960年代の



Professional Design Development の教室があるフロア。アートスクールなので随所に学生の作品が並んでいます。

アフリカ系アメリカ人による大規模な暴動や2013年の市の財政破綻など経験しており、現在アメリカの中でも極めて高い犯罪率や貧困率を有した場所です。こうした場所における Mobility Service は当然一般的な都市において必要とされるものとは性格が異なってきます。このような公共性が高く複雑で包括的な問題を扱ったデザインは経験したことがなく最初は不安でしたが、Lossi

教授のもと8人のチームメイトと現在リサーチを進めています。Contextual Design Research では Ford でマーケティングの仕事をしている方が講師を務め、デザインに必要なリサーチについて体

系的に学びます。Contextual と名付けられている通り、物事の背景に存在する要因（文化的背景や地域性など）が人、デザインにどのように影響を与えるかに重点がおかれています。チームごとにターゲットを定め、実際にリサーチを行いながら授業は進んでいます。（タスクが多くて大変ですが）実践的で学びの多い授業です。

2. 生活の状況

College for Creative Studies では寮で生活をしています。カフェテリアがあり、24時間オープンな軽食売り場がありと生活はほぼすべて大学の中で完結できるように整備されています。授業ではかなりの量の課題を出されるため、自分もほかの学生も（週末も含め！）かなりの時間を課題に費やします。ただ学校の企画する週末のイベントなどもあり、先週はミシガン州で2番目に大きい街である Grand Rapids で行われていた Art Prize に行ってきました。Grand Rapids はデトロイトからは車で3時間ほどの場所にあり、デトロイトとはまた違った町の空気感がとても新鮮でした。また同時にデトロイトという街のユニークさを実感したデイトリップでした。



Grand Rapids Art Prize での写真

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/10/05 ～2018/11/04)

1. 勉学の状況

CCS での生活が始まってから早くも2か月が経ちました。Design Graduate Studio では10月の初旬にリサーチの成果を発表するプレゼンテーションがありました。ドレスコードも指定され、かなり緊張もしましたが無事チームで乗り切ることができました。プレゼンテーションのデザインに関しては、わかりやすさとロジックが通っているかどうかを何度も教授からチェックされ、そういったところは千葉大でのデザインの授業の中で教えてもらってきたことと同じだなと感じます。プレゼンテーション後は Ford の方からフィードバックを受け、そのフィードバックを参考にしながらチームごとにデザイン案を考えています。また先週は実際にデトロイトのダウンタウン郊外へ行き、そこに住むデトロイター（デトロイトに住む人をこちらではこう呼びます）達にインタビューを行いました。インタビューを行う際はアセスメントシートという評価軸をリストアップしたシートを使い、かなり分析的です。おそらく調査では基本的なことなの

と思うのですが、今まで本格的に学んだことがなかった事柄だったため、良い学びになりました。デトロイターたちはアフリカ系アメリカ人の方が多くを占めるのですが、インタビューからは彼らにとって自分たちのルーツを知るといことがとても大切に感じられていることが分かりました。アフリカ系アメリカ人の歴史的背景とアメリカが多民族国家であることが関係しているのだと思います。日本は（学術的には違いますが）単一



デトロイトのダウンタウン郊外を調査した際の写真。写真のような不法廃棄や廃屋などが未だ多数あり安心して過ごせる環境にはまだなっていません。

民族国家であると感じている人は多いと思います。僕自身もあまり自分のルーツを意識したことはありません。そのためインタビューをするまでは、僕の感覚からは彼らが自分たちのルーツを知ることが大切になっているということを想像すらできていませんでした。グローバル化し、生活の仕方も少しずつ似てきている中で、ほかの国の人にデザインすることなんて意外と簡単なんじゃないかと楽観視していたところもありましたが、改めてその場所がもつ、あるいはその人がもつ文化を知ることがデザインするうえでとても大事なんだなということを身に染みて感じました。

ちなみにこのインタビューは実はプレゼンテーションよりも前に設定されていたのですが、諸事情がありプレゼンテーション後になってしまいました。こちらでの授業は初めにかなり詳細に日程が組まれたシラバスが渡されるため、それをもとに予定を組むのですが、プレゼンテーションはインタビューでの成果も含めたものを想定されていたので、学生サイドからは急な変更にもちよびり文句も……。しかしこういった予定変更のたびに教授からは実際にデザイナーとして働き始めるとこういったトラブルは日常茶飯事だと叱咤激励されます。こういったことを含めCCSでの授業（特にマスターの授業）は実際に働いている状況を意識してつくられているのかなと感じることが多いです。こちらではデザイナーの就職は即戦力が問われると聞きますが、そういったところが授業にも表れているのかなと感じています。

2. 生活の状況

先月の月間報告書でも書いたのですが、College for Creative Studiesでは寮では生活が完結してしまいます。また公共交通機関があまり発達していないこととデトロイトの治安から千葉から横浜へ行くようなちょっとした遠出する機会はあまり多くありません（もちろん課題が多いことが一番の理由ですが・・・笑）。生活の状況に書くことがほとんどないことが少し残念ですが、夢のような留学生活ではなく、ご飯を食べ課題をしご飯を食べ寝てというリアルなアメリカのデザインを学ぶ学生の日常を見ていると日本のデザインを学ぶ学生と似ているところも多く、妙な安心感もあります。

もちろん楽しいことが全くないわけではありません！自分についてくれているチューターの子（留学生に一人につき一人のチューターがついてくれます）がホラー映画が好きな子でよく金曜日の夜に一緒に見たり（金曜日の夜は週末以上にみんな楽しく過ごしています）、同じ授業の友達と晩御飯を食べに行ったり、ハロウィンではコスチューム大会があったりと楽しく生活を送っています。

今月は写真を撮るのを忘れてしまったのですが、カフェテリアのご飯などを来月の報告書では紹介したいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/11/05 ～2018/12/04)

1. 勉学の状況

CCS での生活も3ヶ月が経ち、残すところ CCS での留学はあと2週間ほどとなりました。学校にも生活にもほとんど慣れてきたところで、留学が終わってしまうのは残念ですが、悲しむのも束の間で、これからの最後の2週間で行われる各授業でのプレゼンテーションの準備に追われる怒号の日々を過ごしております。

なにより大変なことはグループワークの多さです。私が所属している Integrated Design Course ではほとんどクラスでグループワークが行われています。グループとして1つのデザインを制作しなければいけないため、グループ内でのコミュニケーションに多くの時間を割かれます。ここ1ヶ月はほぼ毎日グループでディスカッションをしています。私は学部時代は個人ワークの授業を主としていたため、はじめはこの時間のかかるグループワークにかなり戸惑っていましたが、Studio Class の中にはグループのまとめ方がとても上手な学生もおり、彼からは多くのことを学んでいます。また初めはアメリカ人は自分の意見を曲げないんだろなあというイメージをもっていましたが、相手の意見を聞きながら柔軟に自分の意見を変える人もいれば、もちろんイメージ通りの自分の意見は絶対！といったタイプの人もあります。そうした気づきがあると知らず知らずのうちに、国籍などで相手のことを何となく決めつけている自分に恥ずかしくなります。この気持ちは帰国後も忘れないようにしたいと感じます。

またこれは Art School ならではののかなと思いますが、プレゼンテーションは2メートルほどのポスターを制作して発表する授業が多いです。千葉大学ではデジタルでの発表がほとんどだったので、とても新鮮に感じています。大きなポスターにすべての情報を詰め込まないといけないため、そのためのレイアウトや印刷方法など授業とは直接関係ないところでも多くの学びがあり、CCS を留学先を選んでことは正解だったと感じています。(ポスターは印刷代がかなりかかるのが難点です・・・)

2. 生活の状況

11月はアメリカの祝日である Thanksgiving がありました。Thanksgiving は家族や親戚と集まって過ごすことが一般的らしく、大学の寮に住んでいる学生も実家に帰っている人が多かったです。僕は市内に出かけて少し買い物をしたり、ヘアーサロンへ髪を切りにいったりしていました。ヘアーサロンに行ったときにおもしろかったのは、髪を切ってくれていたスタイリストさんに突然、「I'll take a coffee break! Do you want some?」と言われコーヒーを渡され、そのスタイリストさんと一緒に10分ほどコーヒーを飲みながら世間話をしていました。はじめは「切っている途中で休憩するんかい！」と突っ込みそうになりましたが(笑)、話を聞いているとアジア人の髪質はカットが難しいらしく結構疲れるのだそうです。「あ～なるほど！だか

ら休憩が・・・いやそれただの言い訳やん！！」と頭の中で突っ込みつつ、そんな人間臭いコミュニケーションのようなものがあるのもある意味いいなと感じた瞬間でした。ちなみにカットが終わるとそのスタイリストさんはやりとげたぜ！といったドヤ顔でほかのスタイリストさんに僕の頭を見せ、お店から出ていくときにはお店の中にいた人皆からなぜか僕が拍手をされるという状況・・・。久しぶりに自分がアメリカにいるんだと再確認した瞬間でした（笑）。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/12/05 ～2019/01/04)

1. 勉学の状況

8月中旬から始まった CCS での生活、デトロイトでの生活もついに終わりを迎えてしまいました。セメスター最後の2週間はプレゼンテーションの準備に追われる日々でとても大変でしたが、その分乗り切ったあとは達成感があり、(徹夜を共にした) クラスメイト・チームメイトとは10倍ほど仲良くなった気がします(笑)

Graduate Design Studio のプレゼンテーションでは、プリントアウトしたプレゼンテーションボードと、口頭でのプレゼンテーションのためのスクリプト及びスライドを製作しプレゼンに臨みました。セメスターを通じて山あり谷ありなクラスでしたが、プレゼン準備も例外ではありませんでした。このクラスでは3チームに分かれ、一つのテーマの下で別々の方向性をもったデザイン案をチームごとに制作していたのですが、プレゼン2週間前になり突然教授から3チームのデザイン案を一つにまとめて、発表してはどうかという提案(というよりも指令なのですが…)がありました。学生側はチームごとの発表を想定していたので、突然の指令に戸惑いつつ大慌てで各チームのデザイン案のレビューをし直し、お互いの案への理解を深め、いかに3つの異なるデザイン案を一つにまとめるかのディスカッションを行いつつ、それをボードにどう落とし込むかの議論をし、最終的にボードが完成したのはプレゼンの2日前という、デザイン学生らしい? 終わりの迎えようでした。またプレゼンテーションには実際のユーザーとして想定しているデトロイトのダウンタウン郊外に住んでいる方も招いていたので、デザイン案をより自分たちに身近なものとして感じてもらうため、フォーマルなプレゼンではなくロールプレイの中でデザイン案を紹介する方式で行いました。このロールプレイ方式のプレゼンは初めての試みでしたが、これもまた難しかったです。彼らにこのロールプレイが単なる想像上の話ではなく、彼らの日常で本当に起こりうるものだと感じてもらうためには、このロールプレイで演じる役柄やストーリーは彼らが現実に直面している状況や常識に即している必要があります、例えば名前であれば黒人の名前がよくあるものは何か、シチュエーションでは外で銃撃を聞いた場合はまずどのように行動するのか(アメリカでは、昨今の警察官による事件のため、黒人の方は警察を呼ぶことを避けることが多いです)などを一つ一つ検証しつつ、物語をデザインしていきました。

プレゼンテーション本番ではいろいろとハプニングもありましたが、ロールプレイを用いたプレゼンテーションは提案を身近に感じる事ができとてもよかったというコメントをもらいました。また提案そのものに対する評価もとてもよかったです。特に印象に残っているのは、彼らが最も評価した点がデザイン案が住民自らがサービスの運営に関わることを前提としており、彼ら自身がサービス提供者でありサービス享受者でもある点です。ここにはこれからのデザインを考えるうえでとても大切なことがある気がします。

CCS での5か月は今まで学んだことのない分野での学びの連続でかなりチャレンジングでした

が、学んだこともそれだけ大きかったです。またこれを乗り切れたのは間違いなく千葉大でデザインを学んできた基礎があったからだと思います。ここでの学びをもう少し深く振り返りつつ、自分の将来像に反映していきたいと思います。



プレゼン終了後の *Integrated Design Course* のクラスルーム。マスターコースの中で一番散らかっている大賞をとりました笑。よくよく考えると最後の1ヶ月はずっとこんな感じでした。

2. 生活の状況

Semester 終了後はマスターコースのお疲れ様ランチや友達がフェアウェルパーティー開いてくれるなど、つい2・3日前までのしんどかった日々は何だったんだというほど楽しい時間を過ごせました。現在は次の留学先であるフランスのビザ取得のためシカゴに滞在しています。美術館や博物館を回りながら束の間の休息を楽しんでいます。シカゴについてまず驚いたのはやはりデトロイトとの違いです。同じアメリカでもこんなにも格差があるのかと考えさせられます。ホステルに滞在しているのですが、デトロイトに住んでいたというと同じ部屋になった人全員に驚かれます。ビザ取得にはもう少し時間がかかりそうなので、フランスでの生活の準備をしつつ、シカゴでの生活を楽しまたいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/01/05 ～2019/02/04)

1. 勉学の状況

冬・春セメスターで学ぶフランスの大学が2月から始まるため、1月は学校はありませんでした。2月の報告書でフランスの大学での学びをご報告したいと思います。

2. 生活の状況

アメリカでフランスのビザを申請していたのですが、トラブルがあり予定では1月中旬にフランスへ渡る予定が2月までずれ込んでしまいました。念入りに準備はしていたのですが、やはり予想外のことは起こってしまうものだと痛感しています。ともあれ問題を解決し、何とかビザを取得でき、大学のセメスターが始まるまでにはフランスへたどり着けそうです。かなりの時間を取られ疲労の大きいプロセスでしたが、これも勉強だと前向きにとらえたいと思います。

本当はフランスでの生活について書きたかったのですが、フランスへの到着が2月6日に遅れてしまったため、2月の報告書でフランスでの生活の気づきなどを報告したいと思っております。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/02/05 ～2019/03/04)

1. 勉学の状況

2月11日より Ensci Les Ateliers での学校生活がはじまりました。Ensci は大学の一階部分がすべて工房となっており、モノづくりがとても身近にある学校です。初めの1週間はコーディネーターの方と授業選択の相談や学校についての説明などオリエンテーションがありました。Ensci の授業選択は抽選制になっているため必ず取りたい授業が取れるわけではないのですが、幸いにもメインのアトリエ授業は第一希望のものが取れました。Ensci はセメスターの初めの2週間は Intensive という集中講義があるため、このメインの授業はまだスタートしていません。この Intensive では Data Visualization と Culture Code という授業を受けました。実はどちらも第一希望のクラスではなかったのですが、いざ受けてみると想像していた授業とは180度違ってとても面白かったです。アメリカの College for Creative Studies でも Data Visualization の授業を受けており、そこでは基礎的技法やデータの読み取り方、データをグラフというビジュアルに落とし込む方法など、学ぶ事柄がとても体系的だったのですが、Ensci ではデータを単にビジュアルに落とし込むのではなく、データの解析に学生の主観による解釈を加え、最終アウトプットをグラフではなく物語にまとめるということでも詩的で実験的なクラスでした。データを美しく理解しやすいビジュアルにまとめるという確立された Data



Data Visualization でのプレゼンテーション。ネットで *Data Visualization* と検索して出てくるものとはかなり違います。

Visualization の定義にこだわらず、新しい表現方法を探索するという授業に Ensci らしさを感じました。

そしていよいよ今週から Atelier Class、Studio Class、Weekly Class といったメインの授業群が始まります。アメリカの学生とも日本の学生とも違った感性をもつフランスの学生とともに行うデザインワークが楽しみです。これらの授業については次月の報告書でまとめたいと思います。

2. 生活の状況

パリではリタイアされたご夫婦の方のお家でホームステイをしております。二人ともとても気

さくな方で、地元のおすすめのマルシェやフランスの文化について教えてもらったり、アメリカの寮生活とはまた違った楽しさがあります。治安については学校がある 11 区は比較的安全であるため、安心して学校に通えています。ただ時折、銃を手にした兵士の方が 6 人組ほどでパトロールしており、パリがたびたびテロの標的にされてきたことを思い起こされます。皆銃の引き金に指をかけた状態で歩いているので、横を通り過ぎるときはもし躓いたりでもしたら怪しい奴だと思われて撃たれるんじゃないかとかなり緊張します。

パリ市内の移動に関しては、主にメトロか徒歩で移動しています。パリはいろいろなものが密集しているので、30 分 - 60 分ほど歩けば大体の場所に行けてしまいます。実はメトロの駅と駅の間隔はだいたい徒歩 5 分ほどだったりすることも多いです。メトロに乗っていて気付いたのですが、パリのメトロには車内広告がありません。日本にいる時だと広告なんてない方がいいのになあと思っていたのですが、ないとないで目で追うものがなくさみしいなあと感じたりします(笑)。

そしてパリといえばルーブルをはじめとするたくさんの美術館ですが、パリについてからの今までの間、授業・生活準備や行政手続きに追われまだ行けていません。Ensci の学生証が発行されると、パリにある美術館はほぼすべて無料で入館できるみたいなので、今月はいくつかの場所をめぐるたいなど計画しています。こちらもまた次月も報告書でお伝えしたいと思います。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/03/05 ～2019/04/04)

1. 勉学の状況

3月初めよりメインの授業群が始まりました。中でも一番大事なプロジェクト型の授業である Atelier de projet ではヨーロッパの某企業をパートナーにプロダクトをデザインをしています。このプロジェクトは機密保持契約があるため、ここではあまり詳しく活動内容を記載できないのですが、プロジェクト期間が短く4月の終わりには最終プレゼンテーションがあるため、毎週必死にモックを作り、アイデアを練るといったサイクルを繰り返しています。千葉大学のプロダクトデザインの授業では、リサーチを通じてコンセプトを考えアイデアを考えていくというプロセスが普通ですが、こちらではいきなりモックを作り始めたり、いきなりムードボードからアイデアを考えたりと、日本とは違った方法論が実践されています。どちらの方が良い悪いということはないですが、郷に入れば郷に従えで Ensci でのデザインの実践を楽しみながら会得しています。ちなみにですが Ensci のプロジェクトは大掃除から始まります。これはプロジェクトごとに各フロアのスペースが与えられているのですが、前学期の学生は作ったプロトタイプなどを置きっぱなしにしていってしまうためです。私のプロジェクトフロアでは大掃除に1日費やすほどフロアが「荒れて」いました笑。ただ Ensci のいいなと思うところは、こういった使い古された素材をストックする部屋があり、学生の管理の下で、ほかの学生が再利用できるシステムがあるところです。こういった文化は千葉大にも持ち帰りたいなと思います。



ゴミの山に頭を抱えるクラスメート。ただ学生主導のリサイクルルームなどは千葉大にも持ち帰りたいユニークな文化です。

Weekly Class では Habilitation Son というサウンドデザインの授業を受講しています。授業では前半にサウンドデザインの歴史・理論を講義形式、後半には実際にレコーダーで録音しながら編集する実践形式で学んでいます。Ensci は音や写真、動画といったメディア関連の授業が充実しており、これらのメディアを使いこなす学生が多いことに驚かされます。色々な素材に触れてきた経験からか、そういった学生は物事に対する視点が広いことが多いです。私もこのサウンドデザインのクラスを通じて自分のデザインに対する視点を少しでも広げられるよう、意識しながら学んでいます。

2. 生活の状況

パリは段々と暖かくなり、春の兆しが見え始めています。日本でもニュースになっていたみたいですが、週末はいまだに黄色いベスト運動が続いています。ですが一部の地域を除きほとんどの場所では大きな影響はなく、週末は市内を散歩したり美術館を訪れたりしながら過ごしています。

前回の報告書でも書きましたが、やっと Ensci の学生証が届きました！留学生課の方の話だと通常3日ほどで届くはずだったのですが、今学期の留学生は3週間待ちました・・・。「Welcome to France!」といった感じですね笑。フランスでの書類手続きは本当に遅く、日本はなぜあんなにスムーズなのだろうと逆に考えさせられます。

さて今月はポンピドゥーセンター、装飾美術館、香水博物館などを訪れました。デザインを学んでいる学生には装飾美術館はとてもおすすめです。ルーブル美術館のすぐ横にある小さな美術館なのですが、パリでは珍しくプロダクトデザインに注目した常設展示があります。プロダクトデザインの歴史を紹介するブースでは、世界に大きな影響を与えたイタリアやフランス、ドイツのデザインに並び、日本のデザインに特化したブースがあり、ちょっぴりうれしい気分になりました笑。日本のブースを熱心に見ていた人もおり、日本にいた時に自分が思っていた以上に日本のデザインが世界に大きな影響を与えている光景に驚きを感じました（ちなみにこちらでは MUJI のデザインが大人気です）。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/04/05 ～2019/05/04)

1. 勉学の状況

4月は月末に1番目のプロジェクトの最終プレゼンテーションを控えていたため、慌ただしくこれまでの留学期間の中で最も早く過ぎ去ったなと感じた一か月でした。

最終プレゼンを控えていた Atelier de Projet ですが、プロジェクト期間が2ヶ月ととても短いため、4月に入るとすぐに最終プレゼンへ向けた細部のデザインの検討・決定、プロトタイプ検討、最終モデルの製作に動き出しました。私は素材に木材を想定していたため、木工工房にこもり、切ったり削ったり彫ったり穴をあけたりと木材加工と格闘していました。Ensci の工房には技術者の方が必ず1人は常駐しており、図面をもって行くと加工方法やどういった素材を使うのが最適かなどと一緒に検討し、アドバイスをもらうことができます。自分の考えたデザインを形にすることを通じて木工の知識や経験を得られることはただ機械の使い方を教わるよりも何倍もよい学び方ができたと思います。

Ensci の授業はほとんどがかなり自由なのですが、私の Atelier の Designer (Ensci では教授を Designer と呼びます) は特にかんりの放任主義で、これをしなさいといった指示はほとんど出されません。毎週やるべきことが事細かく決められていたアメリカの CCS とは正反対です。そのため今回は CCS で渡されたシラバスのストラクチャーを参考にしながら、プロジェクト全期間の毎週のスケジュールを細かく立てていたことが、とても役立ちました。

最終プレゼンテーションにはパートナー企業から10名ほどの方たちがやってきて(クラスメイト曰くかなり偉い人たちだそうで、何とも言えない緊張感がありました・・・)、その方たちとデザイン事務所から来たデザイナーの方2名、Atelier の教授に向けての発表となりました。TED など見ていると欧米人はプレゼン上手なんだろうなという気になりますが、それほど日本との違いはあまり感じませんでした。緊張感もあり淡々と進める人も多く、当たり前ですが皆がみんな TED のようなプレゼンをできるわけではありませんでした。ただ何名かはユーモアのあるひきつけられるプレゼンをしており、ユーモアの大切さを痛感した瞬間でした。



2. 生活の状況

フランスの天候は気まぐれで、春の兆しが見えたかなという週の翌週は初冬並みの気温になったりと過ごしにくい日々が続いています。フランスの家はヒーターは完備されているので、屋内

では寒さには困りませんが、日本と違いエアコンはないことがほとんどで学校にも設置されていません。こちらの友人によるとあと数週間もすれば暑い季節がやってくるようで戦々恐々としてます。暑さの中での工房での作業は地獄になりそうです・・・。

さてフランス語についてですが、私は語学学習ソフトと使いながらこちらにきてもフランス語を継続して学んでいます。ただまだ話せるレベルには程遠く、日々四苦八苦していますが、それでもフランスにいますので、いろいろな場面でフランス語を吸収する機会はあります。先日はスーパーでプリンを見つけて買ったのですが、じつはそれはプリンではなく甘いカラメルソースのかかったおかゆのようなデザートでした。甘いカラメルとご飯という絶対NGな組み合わせにかなり苦い思いをしながら食べたのですが、このパッケージからは Gateau は Cake、Riz は Rice だということを学びました。(笑) 留学ではスーパーに行くだけでも言葉やいろいろな面で新しい発見があることがたても楽しいです。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/05/05 ～2019/06/04)

1. 勉学の状況

4月末に Atelier de Projet の初めのプロジェクトが終わりましたが、休むことなく2番目のプロジェクトがスタートしました。このプロジェクトは南アジアの国々（インドやタイなど）の工芸品を輸入しフランスで販売している会社がパートナーになって進んでいます。プロジェクトのテーマは伝統工芸品のリデザイン（伝統工芸品を今のライフスタイルに合わせたよりモダンなものにする）です。このプロジェクトの課題の一つは自分たちが設備の整った学校の工房で作れるものではなく、現地の Artisan（職人）が作ることでできるものを提案しなければいけないことです。そのためこのプロジェクトでは通常のデザインプロセスに加え、まず素材の加工方法



素材の一つである石鱈石の加工している最中です。比較的やわらかい石なのですが、手作業ではかなり時間がかかります

をデザインし、そこからプロダクトのデザインへの気づきを探るというプロセスも取り入れています。伝統工芸品に使われる原始的な素材（石や貝殻など）ではスマートフォンのようなハイテク機器はもちろん作れません。

そのためデザインしたプロダクトがどのような課題を解決するのか、もしくはどのような価値をもつのかという問いに答えを見出すのがとても難しいプロジェクトですが、その答えを見つけるため、工房で試作・実験を毎日繰り返しています。



プレゼンテーションの様子です。Ensci ではパワーポイントよりもテーブルプレゼンテーションが多いです。

また今月は Weekly Class の最終プレゼンテーションがありました。日本の大学ではすべての授業が大体同じ時期に終わることが一般的だと思いますが、Ensci Les Ateliers では授業によって終わる時期が異なります。私の受講していた Atelier Graphisme では新しい表現方法を探る最終課題でテーマを「Fragile」とし、映像作品を製作しました。最終発表 4 週間前の Intention では良い評価を得ていたのですが、2 週間前の中間発表では作品のメッセージ性が薄れているという（実際はもう少し辛口な）コメントをもらいました。ただそこで面白かったのは、そのデザイナーが、自分が間違っている可能性もある、だ

から中間発表で見た作品も最終プレゼンで見せ議論するべきだ、というアドバイスも同時にくれたことです。ただ違うと否定して終わりではなく、そこから議論してみようよというアドバイスをもらったことはあまりなかったのでとても新鮮でした。議論好きのフランスならではの楽しみ方でしょうか。

Sound Design のクラスでは生活の中の音をあつめて、編集し作品を作るという最終課題でした。最終発表までに中間発表などはなかったため、クラスメイトの作品を聞くのは最終プレゼンテーションが初めてでしたが、どの作品も個性的とても興味深かったです。作品に使われた音の中には、あの音だなと認識できるものから言われてみれば！という音まで様々で、普段いかに自分の周りの環境に無関心でいるかを痛感させられました。ドアの閉まる音でさえコンテクストを変えればとても面白いものになり、視点を変えることの面白さ、大切さを学んだ授業だったと思います。

2. 生活の状況

5月に入りホームステイ先が変わりました。前のホームステイ先は一軒家でしたが現在はアパートの最上階の部屋で生活しています。イメージ通りのパリの生活といった感じで、夕方の自分の部屋の窓から見えるパリの黄昏の街並みはとても情緒があります（視線を道路まで下げると結構ゴミが目立つのですが・・・笑）。ホームマザーはトラベルライターをしているジャーナリストの方で、朝食のときは夕食の時は今まで言った国について話してくれます。日本にも何回も来たことがあり日本通でもあります。



部屋の窓からの夕方の風景。とても情緒があるのですが、日中はとても暑いのが玉に瑕です・・・

先日はフランスの教育事情について話していたのですが、パリではが学級崩壊を起こしている学校やクレームの多い親が多いなど、色々問題が多くあまり教師になりたがる人はいないらしいです。日本と似ているなあと日本の「モンスターペアレント」の話をする、日本ですらそんな問題があるのか目を丸くして驚いていました。彼女の日本人のイメージからは想像できなかったみたいです。日本とフランスと聞くと色々な違いがあるような気がしますが、同じくらい共通点も多いような気がします。階級が重んじられる点や保守的である点、例えばアメリカでは仕事をストップし、大学へ入り直すことはキャリアアップとしてあり得ることで、日本ではなかなか難しいと思います。そしてそれはフランスでも同じだとホームマザーが言っていました。個人主義で自由に思えるフランスにも生きづらさはあるみたいで回ります。

海外派遣留学プログラム月間報告書 (報告期間：2019/06/05 ～2019/07/04)

1. 勉学の状況

6月に入ると、残す授業は Atelier de Projet と Studio クラスのみとなりました。Studio クラスは 6 月の中旬に終わったのですが、最終プレゼンテーションでの評価も良くとても満足いく結果に終わったと思います。絵画をコミックに変換するプログラムを Processing というツールを用いて作ったのですが、Web バージョンを作り美術館へ送れば興味をもってくれるところがあるかもしれないよというアドバイスをもらったので、授業は終わりましたが引き続きブラッシュアップを図っています。

Atelier de Projet ですが、先月に引き続きひたすら工房にこもって素材と格闘していたのですが、突然授業で扱っていた石鹸石という素材の加工を工房ですることが禁止されてしまいました（加工時に出る粉が床を滑りやすくし、また吸い込むと健康被害があるためです）。僕を含めたこの素材を加工していたグループは途方に暮れていたのですが、最終的にケミカルウッドというモデル制作用の素材を代わりに使うことになりました。ただこのケミカルウッドは均一な色をしているため、これを使ったモデルでは最終的な石鹸石で作ったプロダクトの印象が分かりづらいという問題点があったことから、このモデルを石鹸石のように見せる塗装方法を生み出しこの問題を解決しました。フランス・アメリカ・日本で受けるデザイン教育は違いも多いですが、最適な伝え方を作り出そうというデザインのコミュニケーションに関する側面はどの国でも同じだなと感じます。最終プレゼンテーションでは製作したモデルやプロダクトに含め、ストーリーを伝えるために最終的なデザインにたどり着くまでのスケッチやモックアップ・プロトタイプ製作を動画にまとめて発表するという形式をとりました。もちろん一番大事なのは最終的なプロダクトではあるのですが、製作過程を知ってと知らずではそのデザインの見え方が大きく変わることに驚きました。モノそのものは「魅力」を伝えて、そのモノの周りのストーリーが「感動」を伝えるということなのかなと考えています。昨今ストーリーが大事だと言われていますが、いまいち実感がなかったので、自分の経験としてそれを感じることができたことはよかったです。



最終プレゼンテーションのアトリビュート全体の作品です。作品を同じくらいプロダクトやビデオに重点が置かれていた点が印象的でした。

2. 生活の状況

日本でもニュースになっていたみたいですが、6月末ヨーロッパには熱波が押し寄せ、とても暑い1週間となりました。フランスでは国家試験（日本のセンター試験のようなもの）が暑さのため1週間延期されたほどです。Ensci でもちょうどプレゼンテーションの週だったため、熱々の工房や部屋での作業となり、熱中症にならないかなとひやひやしていましたが、何とか乗り切ることができました。夏は日本も相当暑いので、実際大したことないんでしょ、と思われるかもしれませんがヨーロッパと日本の大きな違いはエアコンの有無です。ヨーロッパの夏は通常それほど暑くはないため、学校や家にはエアコンを設置していない場所が多いです。そんな中で今回の40度近くの熱波だったので、国家試験が延期になるほどの大問題となりました。

海外派遣留学プログラム月間報告書 (報告期間：2019/07/05 ～2019/08/04)

1. 勉学の状況

7月も終わり、全ての授業のプレゼンテーション及びコミッションが終了しました。7月中で一番重要だったのがこのコミッションと言われるプレゼンテーションです。このコミッションは **Atelier de Projet** の担当デザイナー及び（留学生である僕は）留学担当課の方に向けて、セメスターで受講した全ての授業についてのプレゼンテーションを行うというものです。このコミッションはセメスターでの学びを振り返るとともに、そこでの学びを統合的に捉えなおし、自らのキャリアにどのように生かしていくかを考え、またそれに対してデザイナーからもアドバイスをもらう場となることを目的に行われています。

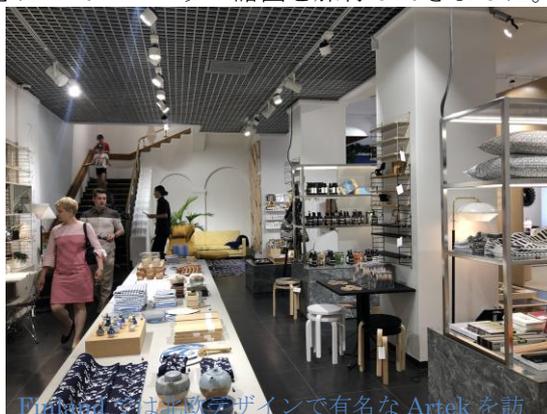
私の **Atelier** のデザイナーは、私の一番目のプロジェクトの最終デザインが概念的なものを上手に現実的な解に落とし込めたと評価してくれており、ここでの学びについて彼の経験の話などを交えながら多くの時間を割いて話をしました。一方で二番目のプロジェクトに関しては、プロダクトを実際に製造可能なものとしてデザインする過程に私のデザイン能力の弱さが見られたことを指摘され、そのような力をどのように養っていくかについて議論・アドバイスをいただきました。

デザインを学ぶ学生は（自分もそうですが・・・）どうしても最終プレゼン直前はかなり忙しくなり、最終プレゼンが終わると振り返る間も無くエネルギー切れになりがちだと思います。そういった意味で、千葉大学にもアメリカで留学していた **College for Creative Studies** にもこのコミッションというシステムは現在ありませんが、セメスターでの学びを振り返る機会をこのように設けるのはとても良いアイデアだなと感じます。これからも意識的に、定期的にこういった学びを振り返る機会を自分自身でつくっていきたいと感じます。

2. 生活の状況

授業・コミッションが終了し、少し時間ができたのでヨーロッパ諸国を旅行してきました。フィンランドやチェコ、オーストリア、ドイツなどを回りながら各地のデザイン関連の施設や町並み、食文化などを体験し、とても良い経験ができたと思います。特に、学部一年生の時にデザイン史の授業で学んで以来ずっと行きたかった、バウハウスを訪れた時は感動でした。

旅行を終えパリに帰ってきた時には、半年ほどしか住んでいないにも関わらず、なんだかとても安心感があり、パリが第二の故郷のような場所になったのかなあと感じています。そんなタイミングで帰国しなければいけないのは少し寂しいですが、また戻ってこれることを願いながら現在帰国準備をしています。



Parisでは北欧デザインで有名な Artek を訪れました。ちょうど企画で日本のデザインが紹介され、北欧デザインとの関わり合いが紹介されていたのが印象的でした。